

## “けんせつ小町”座談会

仕事も家事も子育ても

# ママはスーパーマン!

**働くお母さんとして何ですか？**

周りの人たちが道筋を示して助けてくれます。いろんな方と出会えるのも楽しいですね。



倉品 悠（くらしな はるか）さん

奥村組土木本部土木統括部環境技術室主任。大学院工学研究科環境資源工学専攻修了。お子さんは1歳9ヶ月の女の子。

**建設業で働く女性の視点でどういったモノやコトが必要と考えますか？**

田中　私は建設業で働く女性のために、UVカットのフェイスカバーがぜひほしいと思っています。現場にいる女性の大敵は日焼けです。安全面での理由からタオルを首に巻き付けるのは禁止されていますので、フェイスカバーがあれば助かります。きつい、汚いなどといった建設業のイメージを払拭し、これから多くの若い女性たちに建設業界に入つてもらおうためにも、こうした日でも伝わっていると思います。でも、子供が通う小

さな時に大変なのは日々の食事づくりです。子供たちはよく食べますので、料理は15分ほどの短時間で多くの量をつくれるよう工夫しています。食材は週末に1週間分をまとめて買います。私の仕事について子供たちはよく理解してくれていると思っています。小さい頃は「早くお迎えにきて」「何で遅くまで仕事をしているの？」などと言われましたが、段々と「その仕事にはお母さんが行かないダメだよ」などと言つてくれるようになっています。東日本大震災が起きてから1年ほどは毎日遅くまで仕事をしていましたので、静岡の実家から母に片道2時間半かけて手伝いにきてもらっていました。そうしてどうにか乗り切りました。日々戦いです（笑）。

田中　私は建設業で働く女性のため、UVカットのフェイスカバーがぜひほしいと思っています。現場にいる女性の大敵は日焼けです。安全面での理由からタオルを首に巻き付けるのは禁止されていますので、フェイスカバーがあれば助かります。きつい、汚いなどといった建設業のイメージを払拭し、これから多くの若い女性たちに建設業界に入つてもらおうためにも、こうした日でも伝わっていると思います。でも、子供が通う小



倉品 悠さん(奥村組)

藤川 真梨香さん(前田建設工業)

田中 真弓さん(鹿島建設)

**仕事のやりがいを感じますか？**

倉品　現場で施工管理に携わっていた頃は、例え仮設構造物であっても大規模なものを作ることにやりがいを感じました。人の手による仕事が体感できることこそ、建設業で働く大きなやりがいだと思います。現在は主に本社で現場支援業務に従事していますので、ものづくりに対するやりがいを実感づらい面はあります。が、現場の土壤汚染対策を支援し、地下水に含まれる有害物質が基準値以下に収まっていることを確認できた時などは充実感を覚えます。

藤川　父が土木学科の出身でしたので、小さい頃から庭でコンクリートを練つてものをつくつて運営を始める段階にまでくると「すごい」と感じます。現在は再生可能エネルギーによる発電事業を主に担当しています。発電事業の企画から設計、施工、そして運営までを手がけられるのは、広範なノウハウを持つゼネコンならではのことだと思います。チームで計画した事業が会社の売り上げに貢献するのが目に見えるかかる時などはやりがいを感じます。

田中　私が土木学科の出身でしたので、小さい頃から庭でコンクリートを練つてものをつくつて運営を始める段階にまでくると「すごい」と感じます。現在は再生可能エネルギーによる発電事業を主に担当しています。発電事業の企画から設計、施工、そして運営までを手がけられるのは、広範なノウハウを持つゼネコンならではのことだと思います。チームで計画した事業が会社の売り上げに貢献するのが目に見えるかかる時などはやりがいを感じます。



藤川 真梨香（ふじかわ まりか）さん

前田建設工業事業戦略室  
事業企画部上席調査役。教養学部語学科卒。お子さんは11歳と8歳の男の子。

倉品　私も「男性ばかりの中の女性」という状況が当たり前でした。大学時代は「女性だから」といつて特別扱われたことがなく、むしろ入社してからの方が周りの男性に遠慮していたというような感じがします。建設業の男性の皆さんは女性への接し方がよく分からない

ところばかりではないので、お互いに言い出せないといつたことも少なくないのだと思います。過分な気の遣い合いを和らげるノウハウが現場に蓄積されれば、スムーズにコミュニケーションを取れるようになると思います（笑）。自分は男性たちの中にいることに慣れてしまっているのか、あまり気になりません。



田中 真弓（たなか まゆみ）さん

倉品　私は経験したことはありませんが、日焼けを嫌がる女性は確かに多いと思います。私の場合はヘルメットをしっかりと被り、上着の襟を立てるなどして日焼けを防いでいます。また、女性だけに限りませんが、ヘルメットのあごひもを同じ位置できつめ続けると顔にひも跡が付いてしまうので、適度にずらすなどの対策も必要です。

藤川　私は経験したことではありませんが、現場に女性社員が配属されると、周りの男性たちがどう接してよいのか分からず聞くことがあります。何でも話せる人ばかりではないので、お互いに言い出せないといつたことも少なくないのだと思います。過分な気の遣い合いを和らげるノウハウが現場に蓄積されれば、スムーズにコミュニケーションを取れるようになると思います（笑）。自分は男性たちの中にいることに慣れてしまっているのか、あまり気になりません。

会社の業務や家事、子育てに対し、ワークライフバランスをどう確保しているのでしょうか。ゼネコンで働く3人の「けんせつ小町」に聞きました。

のかもしれません。今後は、男性と女性が気兼ねなくコミュニケーションを取れるようになればいいと思います。ばかりの社会に慣れてしまっているがゆえに、むしろ女性同士の方が慣れていないところがあるのかもしれませんね。といった面はあります。

**藤川** そうですね。逆に多くの女性たちがいる中に入つていく方が苦手かもしません。

**田中** お二人のお話を聞いて思ったのですが、私たちは男性に入って特に違和感がありませんでした。とはいえるに女性同士のネットワークがあまりないので、「母親になつたら、どうしたらいい?」といったことを相談



**藤川** 子供を産んでからは、朝早く起きて勉強していました。朝しか時間はありません。帰宅してからはヘトヘトに疲れ、子供と一緒に寝てしまうのでとても勉強はできません。

## 普段の生活で大事にしているものは何ですか?

**田中** 最近は自分らしさを探すことを大切にしています。自分が何が好きなのか。自分が居心地のよい空間とは何で、それをどうやつたらつくれるのかと考えています。普段の仕事や生活では、できるところまでは精一杯やる気でいますが、「これ以上やつたら自分が壊れるな」と感じたらやめます。そうしないと自分も倒れるし、周りの人も倒れてしまいます。自分らしさについてもう一つ言うと、最近は釣りが面白いと感じていて、自作したルアーを持って一人で釣りに行つて楽しんでいます(笑)。

**藤川** 新しいことを手がける時、ネガティブに考えるのではなく、自らそのことを好きになつて面白くなるよう心がけています。プライベートも含めて何にでも興味を持つ前向きに取り組む姿勢を大切にしていきたいと思つています。プライベートでもっと時間ができたらゴルフをまともなスコアでラウンドできるよつになりたいですね(笑)。

**倉品** 私は現場勤務時代に妊娠しました。現場が繁忙期にあつたこともあり、しばらく上司に言い出せず、毎日調を崩してしまったかもしれませんと悩んでいた時、助産師さんから「後悔しないように早めに決断しなさい」とアドバイスされました。この言葉で吹き切れて、「忙しくても夜7時には退社させてほしい」と現場の上司に申し出ました。その決断は正しかったと思っています。今までにおいてその言葉が頭にあり、これからも後悔しないようになります。



## 学生の皆さんへのアドバイスやメッセージをお願いします。

**藤川** 建設業では技術職がメインですが、事務系の人にも興味を持つてほしいと思います。建設業のよさは、社員が安全、品質などに注意を払いながらバーチャヤルな世界ではない現物をつくることです。日本的なよさである、異なる会社の技術者が信頼に基づいて仕事をするものづくりの健全性もすごく感じています。また、例えば大地震が発生した時に復旧復興のために駆けつけられるのも建設業です。私の主人も同じ会社で働き、東日本大震災の後は被災地に1か月ほど行つていました。家族はとても不安でしたが、子供たちに「お父さんは今、東北で困っている人たちを助けているんだよ」と言えるのは誇りでもあります。

**田中** 私は建設業というのは社会の縁の下の力持ちだと思っています。つくつたものは見えてもつくつた人は見えません。でも、つくつたものに対する人々が利便性を感じて笑顔になつてくれるはうれしいことです。一生懸命にやればやつたりのものができます。気持ちに応えてくれるものづくりの楽しさを伝えたいです。ぜひ、自分とみんなを笑顔にできる仕事の仲間になつてほしいですね。

## 皆さんの目標を教えてください。

**藤川** 会社が経営方針に掲げている脱請負に必要なスキルを身につけて、難しい対外交渉も一人でできるようになります。新規事業に取り組むためにはそれなりの勉強をしなければならず、今後も頑張っていきたいと思います。課題の抽出とともに対策を提案していくたらと思います。

**倉品** 会社では土木職の女性が少ないので、私がロールモデルになつて頑張っていこうと思っています。これから入社していく女性の後輩のためにも、まずは自分がこの仕事を続けていくことが大切だと考えています。

田中 当社では総合職の女性社員を集めた社内研修などがあり、恋バナや育児のことを話すなどよい交流の機会にもなっています。業界では「土木技術者女性の会」がありますので、皆さんもぜひ参加してみてください。

## もつと働きやすい環境となるには何が求められると考えますか?

のできる環境があればいいと思っています。建設業全体でもこうした機会が少ないよう思われますので、これから変わつていくことに期待しています。

**田中** お二人のお話を聞いて思ったのですが、私たちは男性ばかりの社会に慣れてしまっているがゆえに、むしろ女性同士の方が慣れていないところがあるのかもしれませんね。といった面はあります。

田中 当社では総合職の女性社員を集めた社内研修などがあり、恋バナや育児のことを話すなどよい交流の機会にもなっています。業界では「土木技術者女性の会」がありますので、皆さんもぜひ参加してみてください。



**倉品** 自分の時間はありませんよ(笑)。子供が幼いこともあり、仕事をしている時間以外は家事と育児に追われています。取得したい資格もたくさんあります。勉強する時間がなくて困っています。

**田中** 皆さんも同じでしょが、育児や家事をしながらも常に仕事のことを考え、どうしたら時間内に帰れるかを組み立てている日々ですね。資格を取らなければいけない時期は忙しいものもあると感じています。やる気のある人に建設業界にどんどん入ってきていただき、もっと働きやすい環境やこの業界で働きたいと思えるよいイメージを一緒につくりていきたいと思っています。

**倉品** 私たちの会社が加盟している日本建設業連合会では、今後5年間で女性の技術系社員および管理職の比率を倍増するという決意を表明しました。このような時期に、建設会社で働くお母さんの一人として私を取り上げていたいたしたことほうれしいことで、同時にこれらの責任も重いものであると感じています。やる気のある人に建設業界にどんどん入ってきていただき、もっと働きやすい環境やこの業界で働きたいと思えるよいイメージを一緒につくりていきたいと思っています。